



ど、単に数の問題ではないという面もある。

### 3、第三回調査特別委員会

現状がある。大きなプロジェクトにもこれから取り組んでいかなければならない。議員の責務は非常に重大である。過疎をなくし、議員が平均的にでられるような環境づくりも大事だと思っ

ている。  
 ・若い人や子育て中の女性議員などでもできるような開かれた議会も必要である。当面14名を維持して、人口7,000人、予算100億円を切ったその段階で考えてみてはと思う。

・町からの提案は、人口減の考えばかりで、政策的に増やすという考えがないことに失望している。その意味では議員の政策的な提案、議論は必要である。定数については判断がまだ出来ない。  
 ・議会が果たすべき役割を行っていると感じているので、住民から議員定数削減の問題が出てくると思っている。議会がどうあるべきか、人口減について積極的な政策提言をし、役割を果たすな

平成26年5月12日、議会事務局から、標茶町特別職および議員報酬の経過一覧、釧路管内・道内の現状等について資料が提出され、説明を受けた後、主に議員報酬・監査委員報酬について各委員の意見を受け議論した。主な意見の概要は次のとおりである。

意見だ。  
 ・議会選出の監査と識見者との監査委員報酬という観点から考えると、差をつけるべきと思う。標茶の議会選出監査の報酬は他と比べて高いので、検討すべきと思う。  
 ・常識的に言えば、一万円位下げてもいいと思う。  
 ・識見者は、数字的に強いプロで数字上の間違いを重点的に見る。議会選出監査は、事業が適切な金額で行われているか、政治的な目線での確に判断するということから考えると、今の時点で差をつける根拠が理解できない。  
 ・識見と議選との差はつけるべきである。議選監査の報酬が、全道一高いということであれば下げてもよい。

### 4、第四回調査特別委員会

平成26年7月24日、先に配布していた「調査特別委員会報告」(案)について意見交換をした。議員自らが定数について

語ることは難しい。住民の中で、議員が何をしているかわからないという意見がある。住民の声をもっと聞くべきである。  
 ・人口の推移を見ても定数削減の検討に入らなければならぬと思う。平成21年から議会改革は全く進んでいない。住民も話をしていかなければならない。

・人口減少ばかりではなく、人口をどう増やすかということも考えなければならぬ。議会はもつと政策提言をするべきだ。その意味で、定数は現状のままでもいいと思う。

### 5、委員会の所見

① 議員定数については、人口面、産業の発展等から見ても、議員の果たすべき役割をさらに発揮し、住民からの声を聞き、支持が得られるようにすべきである。努力しつつも人口減少が進み、物理的に現行定数の維持が難しくなってきた時点で、再度定数問題について調査すべきである。また、さらに議会の役割を果たすことが住民の負託に応える議会の課題であるなどの意見が出た。特別委員会では、定数削減は時期尚早であるとの意見が大勢を占めてはいたが、引き続き議会の今後の課題とする。

② 議員報酬については、議会選出の監査について、標茶町が全道一高い報酬であること、識見者と議会選出監査との差がないこと、特別委員会の委員の発言も大勢は引き下げの意見であったことなどから、引き下げることが妥当である。なお、引き下げ額は、現行80,000円から12,000円引き下げることとし、引き下げ後の報酬額を管内平均も考慮し、68,000円とする。

本定例会はすべての議案について全員一致で可決されました。